

1-1 利活用戦略の背景と狙い

利活用戦略は、下記【背景】に示す空間再編を契機として、四日市の賑わいづくりに関わる関係人口を増やしていきつつ、質の高い利活用を持続的にやっていくことで、下記【4つの狙い】を達成するための戦略である

背景

- 四日市市では、“ニワミチ”をキーワードに近鉄四日市駅周辺からJR四日市駅にかけての約1.6kmの区間で中央通りの再編を進めている
- バスタ四日市や中央通り公園が完成すると、中央通りは歩行者中心の空間へと大きく変貌する
- この空間の運営には、コンセッション制度（バスタ）やPark-PFI制度が導入され、歩行者利便増進道路制度の活用も想定されるなど、官民連携での賑わいづくりが進められていく

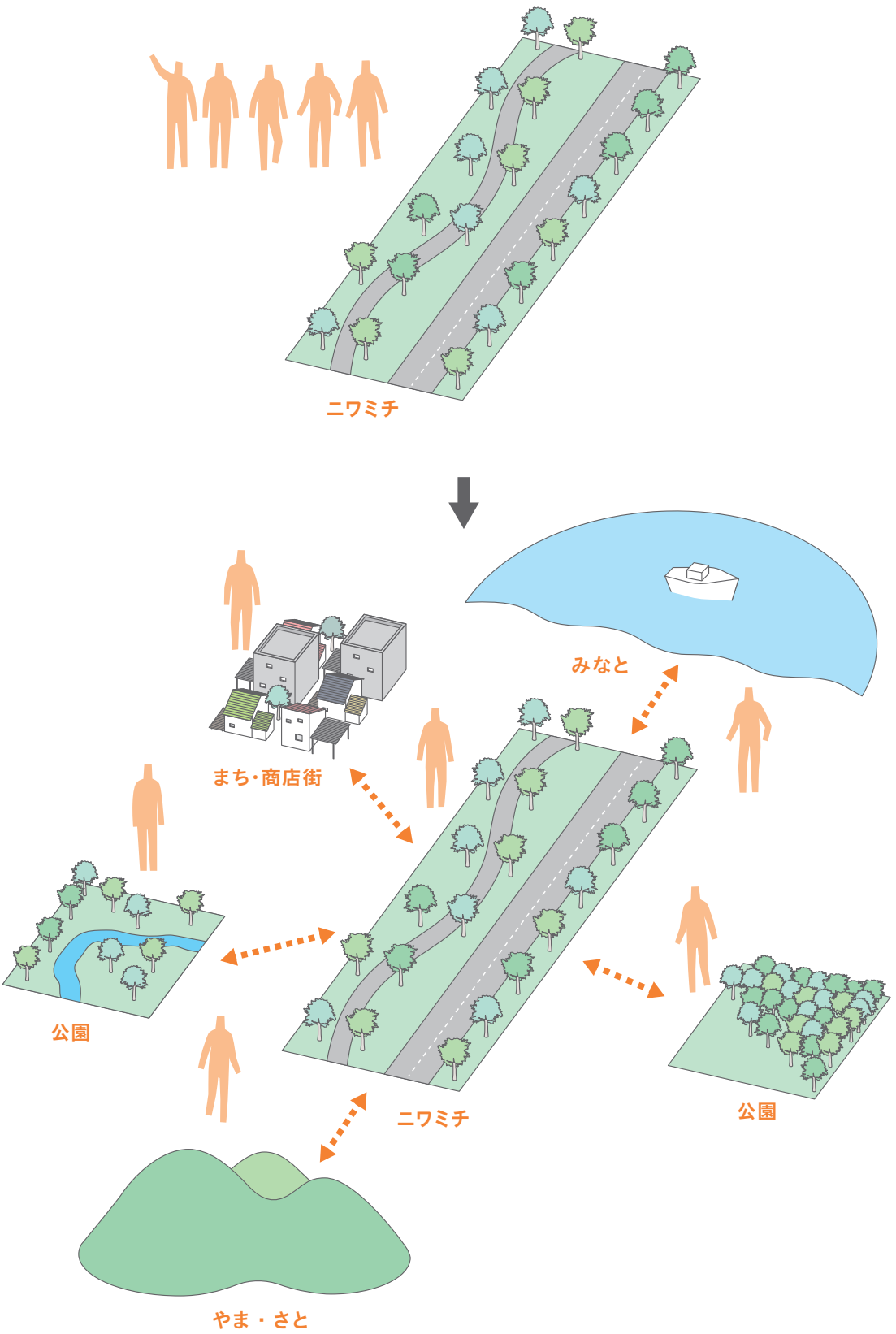
4つの狙い

① それぞれの空間活用の担い手が連携して 取り組むまちのエリアブランディング

- ニワミチ空間の運営に民間活力の導入を図る仕組みが導入されることを踏まえ、それぞれの空間活用の担い手（官（国・市）・民（複数の事業者））間の連携を図る体制づくりの方針を示し、ニワミチ全体の一体的なマネジメントを実現しようとするもの
- ニワミチ空間の使い方の基本的な考えやルールを戦略として示すことで、それぞれの空間活用の担い手の取り組みの調和を図り、四日市のまちのエリアブランディング・価値向上を目指すもの
- 利活用スキームやルール、望ましい活用シーンを示すことで、利活用のための手続きや多様な利活用方法への理解を深め、まちづくりに参加する気運醸成を図るもの

② ニワミチからまち、さと、みなとへのまちづくり・賑わいの波及

都市機能や情報、交通の拠点となるニワミチ空間に官民連携まちづくり体制を整えることで、市内各所や広域エリアでのまちづくり活動を結ぶハブとなり賑わいを波及させていくことを狙いとするもの



③ ニワミチをまちづくりの総合拠点化し、
東海エリアにおける西の中核都市へ

三重県の玄関口に相応しい一大交通拠点が整備され、道路空間やそこで行われるサービス全体を総合的にマネジメントするための拠点として、マネジメントの高度化・多様化を図り（リンク×ノード×マネジメント）、四日市市周辺北勢エリアや三重県と連携することで、東海エリアにおける西の中核都市としての役割を果たす

④ 更なる賑わいづくりに向けた商店街、沿道、周辺公共施設との連携

- 既存まちづくり団体やイベント取り組み主体との連携による、
中央通りを含むまち全体での賑わいづくりに取り組む
- 大四日市まつりや四日市ジャズフェスティバルなど、四日市の市街地全体で同時多発的に実施されるイベントや空間活用を念頭に、既存まちづくり団体やイベント取り組み主体と連携することで、中央通りのオープンスペースの活用を促し、中央通りを含むまち全体での賑わいづくりに取り組む

スマートシティサービスによる中央通りと商店街が連動した“まち育て”を推進

- 空間を使いたい主体と空間を所有・管理する使ってほしい主体のマッチングを促進するスマートシティサービスを実装する
- 中央通りのオープンスペース活用を“まち育て”の契機とし、様々な活動のトライアル（キッチンカーの出店や市民活動の披露の場等）でノウハウを蓄積しながら、商店街等沿道の空き地や空き店舗を活用した展開へつなげていく

沿道の低層部の積極的な活用による沿道と道路が一体となった賑わいづくり

- 沿道でのオープンテラス等の賑わいの創出や「利活有りザーブ空間」の設定による沿道店舗からのにじみ出しなど、沿道店舗や土地所有者の道路への積極的な関わり方を模索し、沿道低層部と道路が一体となった賑わいづくりに取り組む



ほこみち制度を
活用した事例
サンキタ通り（神戸市）

1-2 利活用戦略の使い方

- 賑わいづくり・利活用を通したまちづくりの狙いを見据えて、利活用戦略は、以下のPDCAサイクルを通して継続的に改善していく
- 利活用戦略と景観形成戦略は、相互に連携した戦略とすることから、内容の更新にあたっては、必要に応じて連動した更新を行う

① 計画（PLAN）段階での
運用方針

利活用計画の立案

- まちづくり主体は利活用戦略に沿って年間の利活用計画を策定する
- 利活用計画の中には検証可能な評価指標を組み込む

④ 改善（ACTION）段階
での運用方針

改善点の検討と反映

- ③での評価結果に基づいて、改善すべき点を検討する
- 短期的、あるいは長期的な改善点を、次回計画や利活用戦略そのものにフィードバックする
- 継続的なPDCAサイクルにより、まちづくりの取り組みを継続的に改善していく（利活用戦略）

② 実行（DO）段階
での運用方針

利活用計画の実行

- 計画に基づいて、実際に空間を利活用する
- どのようなシーンが展開されているかを記録し、問題が発生した場合には、計画や戦略に捉われずに柔軟に対応する

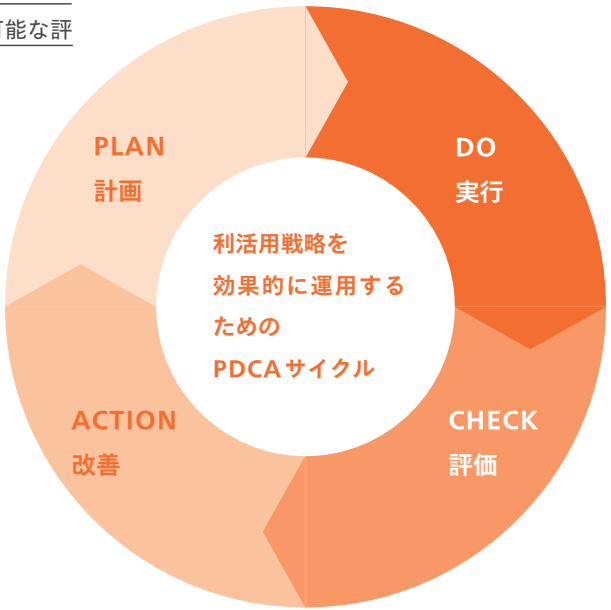
様々な利活用主体との連携

様々な「利活用主体」と連携し、プロジェクトを進める

③ 評価（CHECK）段階
での運用方針

実行結果や戦略そのものの評価

- 実行結果の記録を作成する
- 評価指標に基づいて「3つの戦略」の達成度合いを検証

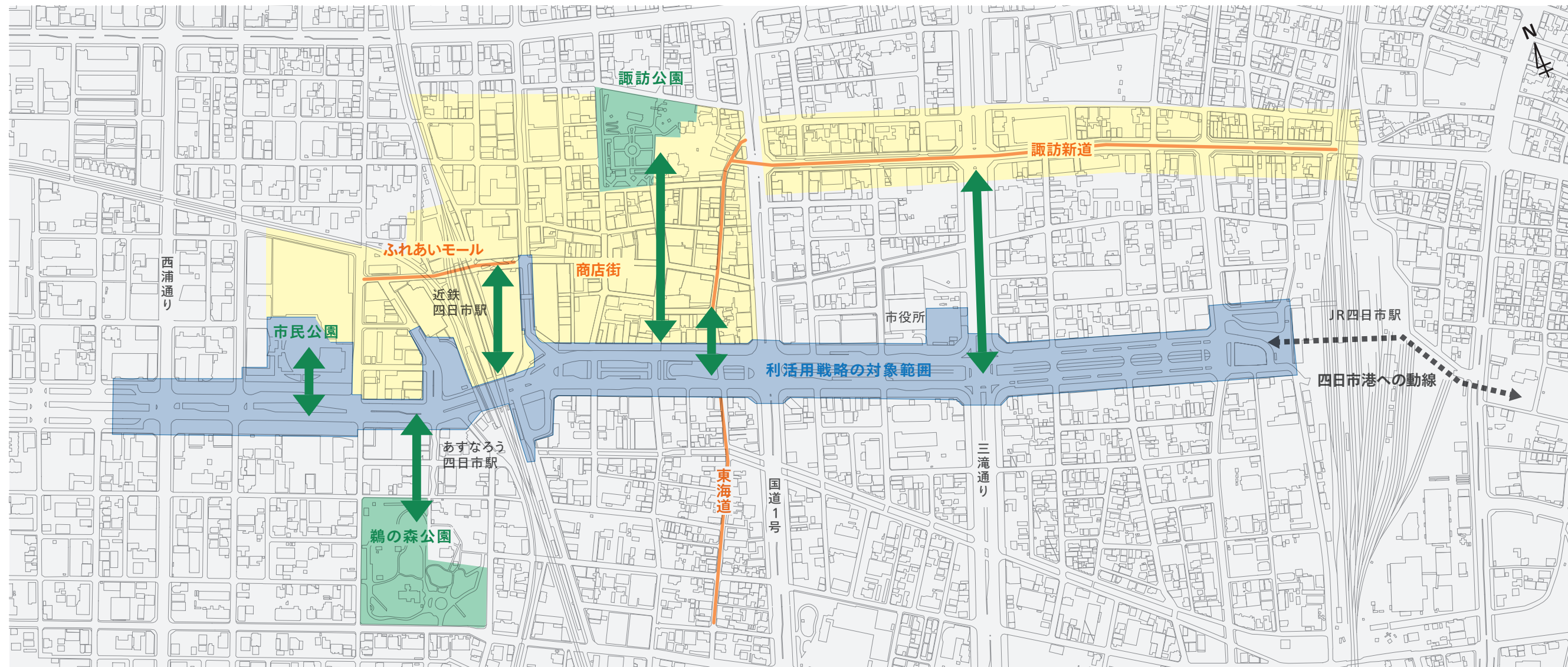


1-3 対象範囲

利活用戦略の内、空間活用の担い手（官（国・市）・民（複数の事業者））間の連携を図る体制づくりの方針は、商店街や公園でのまちづくり活動との連携も含めたものとする

近隣・沿道との連携

- 大規模イベントにおける一体的利用
ex. 大四日市まつり、四日市ジャズフェスティバル等
- 回遊の仕組み（スマートスタンプラリー）
- 将来的には、エリア全体で利活用窓口・情報発信を一本化



“やま・さと・みなと” との連携

- まち・さと・みなとのイベント・観光情報を発信
- まち・さと・みなとのショーケースの役割を果たす（茶畑など）



四日市の茶畑



臨海部の産業集積

広域エリアとの連携

- ニワミチ空間でのイベントや活動の情報発信および誘致
- ニワミチ空間周辺への企業誘致

